



①

# 東北地方太平洋沖地震

## 今わたしたちは…

2011年3月11日14時46分  
太平洋三陸沖を震源として発生した巨大地震  
国内観測史上最大となるマグニチュード9.0の地震は  
東北・関東地方を中心に甚大な被害をもたらしました

日本国内はもとより世界各国から支援の手が差し伸べられ  
復興への一步を踏み出している被災地  
支援の輪は、ここ弟子屈でも広がっています

わたしたちにできることは何でしょう  
すべきことは何でしょう  
今あらためて考えてみませんか



③



④



②

- ①津波により住宅地まで押し上げられた漁船。
  - ②がれきに埋もれる被災地。
  - ③全校児童108人のうち64人が死亡、10人が行方不明となった大川小学校。卒業式を間近に控え紅白の幕が飾られた体育館の時計は、津波に襲われた時刻のまま止まっている。
  - ④泥と物であふれた体育館(③)がボランティアによって磨き上げられた。
- (写真は全て宮城県石巻市・3ページの写真とともに木名瀬さん提供)

### 復興支援ボランティア

### 木名瀬 裕 さん



屈斜路ガイドステーションわか代表  
阪神大震災・有珠山噴火時を経て、今回が3度目の復興支援・救  
援活動。  
東北地方太平洋沖地震では、地震直後の3月14日に弟子屈を  
出発し、16日に被災地入り。津波による被害の大きかった岩手  
県・宮城県の沿岸部を中心に救援活動を行う。27日に物資補給  
などのために一時帰町。31日に再び、被災地へと向かった。  
42歳 札友内在住

阪神大震災・有珠山に続いて、3度目  
の復興支援と聞きました。今回も交  
通が麻痺(まひ)していた震災直後か  
ら被災地入りしたとのことですが、  
なぜ被災地へ向かうのでしょうか。  
―僕にできることは、これしかない  
からです。被災地・被災者の支援の  
仕方はいろいろあり、皆さんそれぞ  
れ何らかの形で支援を行っている  
と思います。その中で、僕の支援の  
形はまず現地に行くこと。行って、  
自分で確かめて、初動で必要なもの

から支援したい。現地でボランティ  
アを行う方はたくさんいます。例え  
ば企業と連携して大型物資を運ぶ  
団体や、僕のように個人で活動する  
方など。僕は、喜びや悲しみやさま  
ざまな感情がぐちゃ混ぜになった  
被災地で、現場で起こっていること  
を自分の目で見て、自分の心で感  
じ、そして生き残った命をつなぎた  
いと思っています。  
具体的には、どのような活動を行っ  
ていたのですか。

# 僕にできることは これしかないから

―自分で持つて行った支援物資を  
届けたほか、現地の物資センターか  
ら避難者のもとへ届けました。ま  
た、がれきの撤去や避難所での炊き  
出しなど、各避難所や集落で会った  
方たちの力になれそうなのは、何  
でもします。持つて行った物資は、  
少しでも被災者の役に立ちたいと  
いう方たちから託されたものも多  
いのですが、僕の体を通して皆さん  
の思いも届けられたのではないかと  
思います。  
―実際の目当たりにした被災地の様  
子はどうでしたか。  
―新聞やテレビで報道されている  
被災地の様子とは、ずれがありま  
す。例えば避難者の数。何万人と公  
表されているのは、行政がカウン  
トできた、つまり避難所で暮らす方  
たちの数です。実際には、半壊した  
家屋の2階部分や車の中などで避  
難生活を送っている方たちがたく  
さんいます。そういった方たちは  
避難者としてカウントされ  
ていないため、救援物資なども  
届きません。  
―また、必要とされる救援物資  
も変わってきています。おむつ  
や毛布など、必要なものとして  
よく報道されていたものは、  
実際には十分に足りていたり  
します。今では、長いことお風  
呂に入れている赤ちゃんの  
体を拭くものや、食器や調理器  
具、日用品などが必要です。今

まで避難所で配られるおにぎりや  
パン、カップラーメンだけで暮ら  
してきた方たちが、徐々に通常の生活  
を始めようとしているからです。七  
輪を使って50人分の食事の支度を  
していた方たちに、まきストーブを  
設置してあげて大変喜ばれました。  
被災された方々はいかがでしたか。  
―被災地入りしたボランティアが  
思わず言葉を失うような悲惨な状  
況ですが、東北の方は謙虚で遠慮深  
く、そして我慢強いと感じました。  
届けた物資を受け取るとはせず、  
もつと向こうの方がひどいから、そ  
ちらに届けてくれと言います。行っ  
た先で僕たちが教わることの方が  
多いです。日本の歴史を振り返った  
とき、東北の方たちが日本を支えて  
くれたという思いもありますし、今  
自分があるのもこうした人たちの  
おかげ。助かった命は絶対につなぎ  
たいと思いました。そのため活動  
だどですすからボ

津波によって、どこも泥だらけ  
再び訪れた被災地では、泥出しも行った



避難所での炊き出し



2

# 今月は町税滞納整理強調月間です もう一度納税通知書をお確かめください 町税・使用料等の完納を！

長期にわたる滞納 誠意のない滞納者には  
給料、預貯金、不動産など差し押さえの滞納処分を実施

- **納人はお済みですか**  
平成22年度分の町・道民税、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税などの納入はお済みですか。納税通知書をお確かめの上、未納の場合は5月末までに必ず納めてください。
- **今回も厳しい納入率**  
平成23年3月末現在の納入状況は、町税、国民健康保険税とも大変厳しい状況となっております。税金や使用料などの完納について、皆さんのご理解とご協力をお願いします。
- **納税相談のご利用を**  
滞納のある場合は、1日も早く解消するため、納税相談にお越しください。
- **確かな町づくりのため**  
「納税」は、国民そして住民としての大切な義務です。税金を完納して、確かな町づくりをすすめてみましょう。


- **口座振替とは**  
町税・国民健康保険税・使用料などが、あなたの預貯金口座から自動的に納入される方法です。口座振替には次のような利点があります。  
▼納入のために、わざわざお出かけになる必要がありません。  
▼うっかり納入期限を忘れてしまうことがなくなります。  
▼いつの間にか滞納となり、納入に苦心することもなくなります。  
※納期限とは別に、分割で口座振替もご利用できます。
- **口座振替できるもの**  
町・道民税(普通徴収)、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税、住宅使用料(公住)、保育料、介護保険料、水道使用料、下水道使用料などです。
- **取り扱う金融機関**  
釧路信用金庫弟子屈・川湯支店、

平成23年度の町税・使用料などの納付書が発行されます

## 納税は便利な口座振替で

**申し込み手続き**  
取扱金融機関または役場税務課、川湯支所で、預金通帳使用の印鑑を持参し、手続きをしてください。

**忘れませんか？ 軽自動車税**  
軽自動車税の納期限は5月2日(月)です。お忘れの方は、早急に納めていただくようお願いします。



問い合わせ先／役場税務課納税係  
☎482-2914(課直通)または☎482-2191(内線224・225)

## まず動くこと それぞれの形で できることがある

ランテアも、連日の作業で疲労困憊(こんぱい)しながらも、ことさら落ち込んだり悲しんだりせず、逆に明るく振る舞っています。一日中続く余震におびえながらも、目の前の現実から必死に立ち上がろうとしている方たちからは、逆に勇気をもたらすように思います。

―津波の被害が大きかった地域は、どこもかしこも泥だらけです。気温が高くなってきたこともあり、衛生状態がかなり悪くなっています。被災者の方の体力も落ちていて、例えば炊き出しでも生の野菜は出せません。感染症も心配ですし、環境整備に重きを置いた支援活動が必要だと思っています。今回、一時弟子屈に戻り、掃除用具などを新たに準備しました。

さらに、子どもがいてうるさいから…などといった理由で避難所ではなく、車の中などで避難生活を送る方が、気兼ねなく利用できるような避難所の雰囲気をつくったり、体制を整えたり…といったことも必要だと思っています。

僕たち一人一人の力は小さく、また被災地の実情を知らなければ、圧倒的に人手が足りないとも思いますが、復興への道を一歩ずつ進む被災者の皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

―僕の活動を支援してくださる皆さんには、本当に感謝しています。そして、まず動くことが大事だと皆さんに言いたいです。今回の震災は人ごとではありません。日本全体で継続的に復興への活動を行っていく必要があります。それぞれの形で行うことができます。

さらに、自然より人間優先の、利便性の上に成り立った生活を見直す必要性も感じます。日本は今、変革の時期を迎えたのかもしれない。(一時帰町中の3月28日にインタビュー)

※現地の状況・「遠く暮らしでもできる支援」などの情報→<http://www.wakka.biz/wakka/shinsai.html>

### 少しでも快適なお風呂を 有志の皆さんが被災地に入浴剤などを送る

川湯にお住まいの中沢基矩さんほか有志の皆さんが、東北地方太平洋沖地震の被災地の皆さんに、入浴剤とタオルを送りました。標準建設業協会会員の10社が、被災地に浴槽4個を設置することになり、会員である篠田興業(標準)と以前町(以前)から懇意にしている中沢さんが、より快適に入浴してほしいと入浴剤とタオルを送ることを思い立ちました。地域の皆さんに協力を呼びかけ、20人の方から募金が集まりました。集まったお金で、入浴剤80個とタオル330本を購入。浴槽が4カ所の被災地に設置されるのに合わせて、被災地へのメッセージを書いた段ボール箱8個(1カ所2個)に梱包(こんぱう)して、同協会に託しました。中沢さんは「募金に協力していただいた皆さんに感謝している。川湯の人はいつも温泉に入っている。被災地の不便の生活の中で、少しでも温泉気分を味わってもらえたら」と話していました。

### 被災地へ物資などの支援

#### 東日本災害被災者弟子屈町緊急支援本部を設置

町では3月18日、徳永町長を本部長とした「東日本災害被災者弟子屈町緊急支援本部」を設置しました。被災地への支援の一環として、食料品や水など約1・6トンを購入。3月24日に陸上自衛隊美幌駐屯地を通じて搬送されました。今後も、町内業者から支援に必要な物資を購入し、順次搬送することになっています。

自衛隊によって搬送される町からの支援物資